

「全鍍連」 2025年 5月号 巻頭言

全鍍連技術委員長 小杉 亮 (旭産業(株) 代表取締役社長)

「多能工で人材不足を補う」



全鍍連傘下の企業そして従業員の皆様、健康で幸せに暮らしているでしょうか。私がこの、めっき業界に入ったのは、昭和52年4月のことあります。その頃の当業界は約3000社余りでした。その頃から約50年経った現在では、全国的に企業数が減少して、約3分の1の1000社余りとなりました。従業員数も約27%減少したものの、企業数の減少程では無く、1企業あたりは多少増加しているようです。全体の出荷額としては、30%程増加しているようです。零細企業は淘汰され、中小企業と言えども多少規模が大きくないと、存続が難しい状況と言えらると思います。法令遵守と言う事から、地下浸透、排水規制 環境問題、そのほか多種の規制により零細企業ではやって行けないのが実情では無いかと思います。以前は真面目にやっていたら、明日のご飯が食べられるというめっき業界ではありましたが、昨今の情勢を考えると、相当努力をして行かないと、美味しいご飯は食べることが出来ない状況になって来たように思います。電気ガスその他材料の高騰により、利益を圧迫して値上げを余儀なくされ、また、世界的不景気により、受注量の低下により廃業して行く企業も少なくないようです。当業界は部品としてはほぼ最終工程に近い物が多く、景気が回復しても受注されるまでには時間が掛かり、業界全体の業績回復は、まだまだ先のように思えます。ただこの業界は物作りではなくてはならない物であり、当業界が衰退して行くことは、日本の工業が衰退してしまったという事で、今ある会社は日本の今後の発展の為に何とか存続して頑張っていてほしいものです。自動化されたものは更に合理化して行き、また 手作業で無くては出来ない製品も数多く残っています。技能向上は一夜にして出来るものではなく、長い年月が掛かることから、伝承して行く必要が有る事を忘れずにいてもらいたいものです。従業員の技能や技術の向上を目指すのには、技能検定試験、(1級 2級 3級)を受験する事や、全国めっきコンクールに出展する事により、自然に技能が身に付き、知らない間に会社に貢献する人材に育って行くと思います。人材育成の観点からも、全国めっきコンクールへの参加が技能向上への近道かもしれません。人手不足を解消するためには、人材育成は不可欠であります。多能工の育成で少しでもそれを補う事が出来れば良いと思っています。